

2024年度事業報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

1. 事業活動報告

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

- 地域から寄せられる寄付品を有効に活用し、資源の地域内循環に努めました。

寄付件数 2,982件 販売衣類 14,281枚 雑貨 28,307点
総売上 13,371,310円 (フェアトレード品を除く)

2. 主にアジア地域の人々の生活の向上と自立に寄与する事業

- 支援NGOから情報を収集し、その支援プログラムを理事会で討議し、支援を行いました。また、地域にその情報を発信し募金の呼びかけを行い寄付文化を拡げました。
- 東日本大震災の復興支援「3.11を忘れない！」を継続して行っています。
- 最も過酷な人道的状況下に置かれているガザの人々に、JVC（日本国際ボランティアセンター）を通じて支援を続けています。

2. 事業活動内容

1. 資源のリユース・リサイクルを推進する事業

1) WEショップ2店舗と「スペースWEWE」の運営

- ・ショップスタッフ、ボランティアの人たちと共に、WE21相模原2ショップの業務及び運営に努めました。
- ・地域の方々の協力をいただき、2025年2月に設立25周年を迎える「WE21ジャパン相模原25周年記念レセプション」を開催する事が出来ました。
- ・ほぼ毎月、時節に沿った企画を行い集客、売り上げに努めましたが、夏の猛暑と大雨による野菜類の高騰や、エネルギー需要のひつ迫が発生しエネルギー価格も上昇、衣類や日用品等の買い控えがうかがわれ、新年からの売り上げに影響が出てきています。
- ・「ボランティア募集」「寄付品のお願い」等チラシを作成し事業の推進に努めました。
- ・10月21日「リメイク・手づくり品・着物市」を外会場で開催。着物やリメイク品を販売し、資源の有効活用を進めている「WE21ジャパン相模原」の活動を伝えました。また、参加した2ショップのボランティア同士の交流もあり、その後、ボランティア参加の「ナカノ工場・エコものセンター見学」を実施し、WE21相模原のリユース・リサイクル活動を理解できたとの報告がありました。
- ・事業の要であるショップ運営について、適宜「相模原ショップスタッフ調整会議」を開催し、チャリティーショップの理念の再確認や、ショップ運営の問題点を討議し改善に努めました。

めました。

【スペースWEWE】

多目的スペース

- ・着物や、リメイクボランティアによるリメイク作品の展示販売を行い、着物文化やリメイク文化を拡げました。
- ・リメイク担当者、リメイク制作の人材不足は今年も課題となっています。

【若松店】

売上げ目標：8,100,000円

実績 : 8,746,155円

客数 : 9,403人

延べボランティア数 : 1,183人

- ・地域の皆様の寄付やお買い物が、直接支援につながることを丁寧に話しながら「チャリティショップ WE SHOP」への理解を深めていただくように努めました。宅急便等で送っていただいた寄付者には、電話だけではなく情報紙 WEWE やイベントのお知らせを送付してお友達にも紹介をお願いしたことや、次の寄付につながりました。活動報告・支援報告等は、写真を中心にタイムリーにわかりやすい広報活動にしました。近くの商店街の祭りに参加し、より地域密着型チャリティショップをアピールする機会を得ることができました。
- ・チャリティショップ活動をより広く地域へ拡げるため、情報誌 WEWE を南台店とすり合わせをしながら戦略的に撒きました。撒き手は、体力の問題などで減りましたが、ボランティアのご家族が自主的に参加した結果、より広い地域への配布が可能となりました。
- ・ブログは、日本の伝統行事、ショップ年間計画イベントを中心にアップしました。広報活動の中でブログの位置づけを明確にできなかったことが、毎月出せなかつた原因となりました。
- ・南台店との合同研修として、資源を有効に活用するための関連施設WE 21 ジャパン エコものセンター及び繊維リサイクル ナカノ(株)を見学しました。参加したボランティアは、南台店スタッフやボランティアとの交流が出来たことで同じ目的を持った仲間としての共感を得ることができました。
- ・新規ボランティア確保のためA看板、掲示板に募集案内を掲示し店内でも活動内容を伝えながら声掛けをしました。地域活動の中で声掛けを続けた結果 3名新人が入りました。
- ・ショップ運営にボランティアの力が最大限に活かせるように毎朝ミーティングを開催し後半に入るボランティアにも出来る限りミーティングを行いました。リメイクに関連した細かな規定を決めるためにリメイクボランティアミーティングは、6月に開催しました。WE21 ジャパン相模原主催イベントやショップイベントの開催、売り上げ等の情報は、毎週入れないボランティアにもメールなどを使って共有した結果、短時間でも入ってくれるこ

とが多くなりました。

・恒例企画となった4月「春夏バッグ&アクセサリー市」9月「秋冬バッグ&アクセサリー市」を開催し目標売り上げを達成しました。6月「レトロ&おもしろ雑貨市」は、主に男性客に人気で新しい客層開拓に貢献しました。又南台店と同時開催した11月「アジア&フェアトレード展」を月間イベントとして開催し「もう一つの支援」フェアトレードをお客様やボランティアと話をする機会を持つことができました。

・リメイク文化を広めるためにリメイクボランティアと話し合いながら寄付品を再活用、再利用し地域に必要なリメイク品を作成し販売しました

・リメイク事業がスムーズに行われるようリメイク担当者を探しながらスタッフ間で協力してリメイク関連事業を行いました。

しかしながらリメイクを担う人材を探すことは難しく、引き続き課題となっています。

【南台店】

売上げ目標：5,700,000円

実績 : 5,433,245円

客数 : 5,941人

延べボランティア数 : 753人

- ・スタッフ間の情報共有については、スタッフが同時にシフトに入る事が難しい状況があり、情報共有の場を頻繁に持つことが出来ませんでしたが、業務に支障をきたさない為に、週2回は、前半後半いずれか同時にショップに入る様にした事で、業務の確認が出来ました。今後もコミュニケーションを密に取るように努力していきます。
- ・今年度も、南台店2大恒例企画の6月「アクセサリー市」、10月「バッグ市」を開催しました。開催を心待ちにしていたお客様が多数来店され、楽しんで頂く事が出来ました。「バッグ市」は目標をクリア出来ましたが、「アクセサリー市」は良品の提供が少なく、単独では厳しいと思われる所以、次年度は「アクセサリー&バッグ市」として開催を検討したいと思います。
- ・9月の「手づくり市」は、手づくり小物類は、多数集まりましたが、衣類を含め、売上に繋がる手づくり品が少なかった為、目標には届きませんでした。次年度の実施は検討課題です。ただ、来店者に10月開催のWE21相模原主催の「リメイク・手づくり品・着物市」のお知らせをする事が出来、当日の集客に繋ぐ事が出来ました。
- ・また、セール以外にも、ワゴンに「お買得コーナー」を設けて、通行の人たちにも目を向けてもらえる様、日ごとに品物を変え、集客及び売上向上にも努めました。店内にも常に小さなお買得コーナーを設ける等の工夫をしました。

- ・WE 2 1 相模原の活動報告及び支援活動を、外の掲示板、窓、店内支援コーナー、A看板等に掲示し、「チャリティーショップWE ショップ南台店」の広報に努めました。
ショップのブログは、年間企画、その他行事、寄付品の紹介等を発信しました。
ブログを見て来店される方も見受けられましたが、アップする回数も少なかったので今後はさらにこまめに楽しいブログでの広報に努めます。
- ・11月の「フェアトレード展」は、若松店と同時期開催とし、常設品のフェアトレード品以外に、今年もアフガニスタンのドライフルーツを販売しました。フェアトレードの意義や支援先の情報を来客に伝える事が出来、特にアフガニスタンの支援を伝えるきっかけとなりました。
- ・今年度は、11月に「WE 2 1 ジャパン相模原」主催で、「WE 2 1 ジャパン エコものセンター」と、繊維リサイクル「ナカノ工場」の見学が企画され、若松店と南台店の合同研修が行われました。寄付された衣類の流れを実感し、リユース、リサイクルへの関心が深まりました。又、2ショップのボランティア同士の交流に繋がりました。
- ・ボランティアから、積極的に店内のレイアウトや商品の見せ方等のアイデアの提案を聞き、ショップ運営に生かしました。
近年、ボランティアの高齢化に伴い、病気や怪我が年々多くなり、シフトが厳しくなっています。ボランティア獲得の必要性を感じ、来客への声掛けをしましたが、残念ながら新規参加はありませんでした。引き続き、来客への声掛けや、ボランティアの友人、知人への声掛け依頼、店頭広報等工夫をしていきたいと思います。
- ・年間計画表を作成し、共通認識が必要な情報をボランティアと共有し、また、ボランティア全員のグループラインへ、常に情報発信をしました。日々必要な情報を伝える為、朝礼等で確認していきます。

2) リユース・リサイクル事業

日時：通年

場所：WE ショップ若松店（相模原市南区若松4-13-3）

WE ショップ南台店（相模原市南区南台6-15-17）

従事者： 理事 8 名、ショップボランティア 40 名

受益者： 主に相模原市南区の市民及びショップ利用者

支出額： 12,066,575円

- ・WE 2 1 ジャパン、WE 2 1 ジャパン・グループと連携して、この事業を推進しました。
- ・販売できなかった衣類、陶器、ガラスの一部、羽毛製品をWE 2 1 と連携するリサイクル企業に届けリユース・リサイクルに努めました。

2. 主にアジア地域の人々の生活と自立に寄与する事業 (支援一覧参照)

2000年に活動を開始し、「WE 21相模原らしい支援とは」を模索しながらの出発でした。日本国際ボランティアセンター等支援を行っているNGOの活動に学び、2004年度からはWE 21相模原独自の支援を開始し、今年度末まで支援総額2,000万円を超えることができました。

ショップを育てて下さった地域のお客さま、ともに運営を支えて下さったボランティアの皆さまがいたからこそこの成果です。

国内及び海外支援

日時 通年 場所 支援プログラム実施の国・地域

従事者 理事8名 受益者 支援プログラム実施の人々

支出額：1,732,359円 (フェアトレード品仕入れを含む)

2024年度の支援総額は 6プログラム 951, 074円となりました。

1) 国内への支援

1プログラム 233,500円

「3. 11をわすれないキャンペーン」 東日本大震災への支援は今年で15年となります。

他にも多くの震災支援がありましたが、東日本大震災では福島原発事故が起きています。今なお「放射能」の不安を感じながら暮らしている人がいます。

現在の支援はそのような人たちへの支援 「甲状腺検診」「子どもドック」支援となっていきます。

2. 海外支援活動をしている団体への助成金等の支援

5プログラム 71,7574円

・パレスチナ ガザ

イスラエルへの攻撃がますます激しくなり、「緊急支援」「貧困撲滅のための国際デー キャンペーン」の2回支援を行いました。

貧困撲滅のための国際デーに毎年支援を行ってきた「ガザの子どもたちへの栄養改善事業」は現地NGOメンバーも難民と同じ状況にあり、その活動は非常に困難なものになっています。2025年1月19日から6週間の停戦になりましたが、イスラエルの攻撃は「ヨルダン川西岸地区」にも対テロを名目に行われています。

政治的思惑で、パレスチナの人々の「暮らし」「命」がますます脅かされる状況になっています。

・アフガニスタン

タリバンが実権を握ってから次々と女性への権利制限が行われているアフガニスタン。特に女性教育は厳しいもので、まず中等教育が、そして高等教育も無期限停止となっていました。

まいました。それでも学びたい女性たちは「地下学校」「秘密学校」「隠れ学校」などともいわれる学校で学びを行っています。これまでアフガニスタンでの教育支援を行ってきましたが、これまでとは比較にならないほど厳しい状況にあるアフガニスタンの女性たちの「学びへの思いと努力」が継続できるよう支援しました。

・その他

「チョコ募金」を通して人から人にこのチョコレートが渡り、多くの人にメッセージを伝えることが出来ました。

「東ティモール」への支援6年ぶりに行いました。WE 21相模原設立と同じ2000年に独立した「東ティモール」への支援を長年行ってきました。

実施団体の「APLA」がコロナ禍で訪問できなくなっていましたが、今年度「在来の種子を守る」ための活動がはじまり支援を行いました。

〈2024年度WE 21ジャパン相模原支援一覧〉

支援国 地域	支援プログラム名	実施団体	金額 (内寄付及び募金)	備考
パレスチナ ガザ	緊急支援	日本国際ボランティアセンター	100,000円 (50,000円)	緊急支援の主な内容 ・EL Wafa 病院(40~50床)のサポート ・現金配布(2週間位の生活費) ・栄養支援(中部地区)
東ティモール	在来種子保全を訴える演劇上演と動画作成	APLA	35,000円	「種子バンク」づくりにむけての活動
パレスチナ ガザ	ガザ中部 母子保健活動	日本国際ボランティアセンター	237,574円 (43,593円)	貧困撲滅のための国際デー(10月17日) キャンペーン
アフガニスタン	女性たちの学校支援	平和村 ユナイット	225,000円 (61,980円)	クリスマスキャンペーン 12月19日~25日
イラク シリア 日本	イラク小児がん医療 シリア難民支援 日本福島の子どもたちを放射能から守る	JIM-NET	120,000円 (112,376円)	チョコ募金

日本	甲状腺検診 子どもドック	いわき放射能 市民測定室 たらちね	233,500円 (103,870円)	3.11をわすれないキ ャンペーン 3月10日～15日
合 計			951,074円 (371,819円)	

3) フェアトレード品の販売による支援

日時：通年
 場所：相模原市南区及び近隣地域及びフェアトレード生産地
 従事者：理事8名、ショップボランティア30名
 受益者：フェアトレード生産者及び生産地域の人々
 支出額：682,470円

- ・「もう一つの支援」であるフェアトレードについて、その理念や仕組み・現地の情報をショップで積極的にアピールし「フェアトレード月間」も企画し販売に取組みました。
- しかし、近年の燃料等の高騰でフェアトレード品の価格の値上がりが続き販売に苦慮しています。

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業

1) WE講座の開催

日時 通年	場所 相模原市南区及び近隣地域
従事者 理事8名	受益者 相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額：85,477円	

今年度のWE講座は、「フェアトレードを通して支援を知る」をテーマにしました。

販売するだけではなく「フェアトレード」の意味を知り、チャリティーショップとして地域の人々に伝えていきたいと思います。

講座名	開催日	講師	参加人数	備考
パレスチナ産 オリーブオイルは何を伝え る	6月27日	(株) オルター・ トレード・ジャパン 小林和夫氏	26名	アンケートで、オリーブオイルだけではなく、パレスチナ ガザ・ヨルダン川西岸についても印象に残った、との出席者が多かったです。
森育ちのしょ うがパウダー	11月7日	WE 21 ジャパン 理事 水谷晶子氏	18名	WE 21 ジャパンが行ったフィリピン山岳地帯との交流がきっかけで始まったフェアトレード。改めて生産地域などを知る機会とした。

多くの地域NPOが実施しているプログラムについて合同の報告会等が行われ参加しました。

●パレスチナ ガザ 2024年5月17日 日本国際ボランティアセンター 大澤みづほ氏 「ガザ市民の暮らしと支援活動の今」

2025年2月14日 同上
「ガザ 緊急支援報告」

●アフガニスタン 2024年10月10日 オンライン

アユース 平和村ユナイテッド アフガニスタン・ザイナブ氏
アフガニスタ「女性の学校」主催者が参加

●チョコ募金 2024年12月18日 JIM-NET 長谷部貴俊氏

チョコ募金の活動からおもにイラクの状況について報告
イラク戦争で使われたといわれる劣化ウラン弾が原因と思われる子どもたちのがんの増加。「医療品支援」「貧困患者支援」「心のケア」がんを感染症と考える人も少なくないため「学校での啓発活動」「相談業務」を行っています。

●日本 福島訪問 2025年3月1日～2日 WE 21 青葉主催スタディツアーパートに参加
支援先「NPO法人いわき放射能市民測定室」等を訪問。あらためて被災地の現状を確認し、継続支援の必要性を感じました。

4. この法人事業の広報普及を図る活動

日時 通年	場所 相模原市南区及び近隣地域
従事者 理事8名	受益者 相模原市南区及び近隣地域の市民
支出額：143,769円	

1) 情報紙WEWEを3回発行しました。

「チャリティーショップ」としての活動を伝えるため、「キャンペーン」の告知や支援の内容を中心として地域に発信しました。

	内 容	発行枚数
87号 初夏号	「チャリティーショップ」ってなあに? 「リメイク・手づくり品・着物市」予告 2023年度支援一覧	6500
生活クラブ	同 上	4000
88号 秋号	10月17日「国際貧困撲滅デー」キャンペーン 「パレスチナ ガザ」 「リメイク・手づくり品・着物市」	4000
89号 冬号	「クリスマスキャンペーン」12月19日～25日 パレスチナ ガザ 支援報告 物流倉庫・故繊維リサイクル工場見学	5500

ボランティアの減少 高齢化等により地域に多くを配布することが難しくなっています。情報紙WEWEは、その時地域に伝えたいチャリティーショップの情報が詰まっています。ボランティアに内容の説明をし、ショップでは、一言添えて配布する等の工夫が大事になります。また、どのように配布したら効果的かをその都度考えていく必要があります。

2) ホームページ

2023年度にホームページの改定を行いましたが、外部にサイト構築を依頼したことによりホームページ更新作業は大幅に負担が軽減されています。使い勝手が悪い部分等については費用と相談しながら修正していくことになります。今後はホームページを使い「何を・いつ発信するか」の論議をし、より情報が伝わるものにしていく必要があります。

5. その他定款第3条の目的達成に必要な事業

1) 法人としての確実な運営

日時：通年	場所：相模原市及び近隣地域
従事者： 理事 8名	受益者：相模原市及び近隣地域の市民
支出額： 1,199,659円	

- ・役割分担、分配金等みんなで話し合い決定し、運営に責任を持つために「ワーカーズ・コレクティブ」方式で組織運営を行いました。
- ・2024年7月より「ワーカーズ・コレクティブ連合会」「ワーカーズ・コレクティブ協会」「生活クラブ神奈川」が連携し、新たな中間組織として「(一社)つながる市民連帯経済かながわ」と改名し、機能、役割を発展させた地域づくり行います。WE21相模原も連携し活動を推進します。
- ・近年、気候の変化や、予知が難しい地震の多発などで不安が広がっています。来客やボランティア、スタッフの身を守るために「緊急時対策」を見直しました。「緊急時対策ボランティア編」を2ショップのボランティアに渡し「防災グッズ」の所在確認と共に共有しました。

2) WE21ジャパンとの連携

- ・WE21との双方の関係性を明確にして、共に発展していくよう「WE21ジャパンの目的を達成するための合意」に基づき連携しました。
- ・WE21主催の各種会議や学習会に参加し、意見交換や情報を共有し連携しました。
- ・「森育ちのしおりがパウダー連絡会」に参加し計画購入の仕分け、発送、入出庫管理作業を購入地域と連携して行いました。

3) WE21ジャパン・グループとの連携

「WE21ジャパン・グループ会議」「県央ショップスタッフ会議」に参加し、情報共有、意見交換し連携を深めました。

4) 政策提言活動

- ・「コミュニティオプティマム福祉マネージメントユニット相模原」（以下ユニット）10団体と連携し、非営利市民事業の課題解決に向けて相模原市の担当者と情報交換し政策提言活動を進めました。

5) 他団体、行政との連携

- ・「イオンの黄色いレシートキャンペーン」の趣旨に賛同し登録団体となり、地元市民にWE21相模原の活動を広めました。
- ・「若松商店街まつり」に若松店が参加出店し、身近な地域にWE21相模原の活動を広めました。
- ・「さがみはら市民活動サポートセンター」主催の「中・高生ボランティアチャレンジスクール」に登録しWEショップでのボランティア体験を通じて、若い人たちに地域資源の有

効活用や民際支援、社会貢献等WE 2 1相模原の活動を伝えました。

- ・参加型福祉や地域課題を考えるユニット会議に参加し、情報・意見交換を行いました。
- ・「さがみはらSDGsパートナー」認定団体と連携し「相模原SDGs Expo2025」でのスタンプラリー企画に景品を提供しました。
- ・青山学院大学からの活動紹介依頼、近隣の小中学校からの体験学習を受け入れ、WE 2 1相模原の活動を若い人達に伝えました。
- ・座間市就労準備支援「はたらっく・ざま」と連携し、WEショップを就労支援先として協力しています。今年は依頼がありませんでした。
- ・津久井「青い鳥」と連携し、布ぞうりを期間限定で販売し、共にリサイクル活動を進めました。
- ・「さがみ生活クラブ」主催「わくわくワークフェスタ」に参加してWE 2 1相模原の活動を伝えました。ショップボランティア呼びかけに1名のボランティア参加に繋がりました。